

団体名 一般社団法人ユガラボ

見守り活動のタイトル：

多世代の居場所づくりを通じたセーフティネット構築事業

キャッチコピー

誰もが主役のまちづくり

代表 山田貴子

住所 259-0301 神奈川県足柄下郡湯河原町3-2-11

連絡先 contact@yuga-lab.org

ウェブサイト：<https://yuga-lab.org/>

団体活動開始：2015年11月～

見守り活動の概要

●多世代の居場所運営

子ども達の「本音で語り合いたい」「安心してありのままにいられる場所がほしい」という願いから生まれた、赤ちゃんからお年寄りまでが安心して過ごすことのできる居場所。構想から、物件探し、設計図の作成、放課後リノベーションを子どもたちが中心となり、地域の方々と共に2015年に活動を開始し、現在は神奈川県湯河原町にて2拠点運営。

●セーフティネット構築事業

コロナ禍に、湯河原町のひとり親家庭や要保護・準要保護世帯の子どもがいる世帯に食品を届ける活動を開始。食材の配布、ファイナンシャルサポーターやソーシャルワーカーへの無料相談、学習サポート事業を通してあたたかなつながりの感じられる子育て環境・困ったときに助けて！と声をあげられる関係性づくりを行う。

見守りエピソード/ストーリー

●2015年、居場所づくりを開始した当時の小学生が2023年現在、大学生となり、今度は彼女たち自身が子どもたちを見守る立場として活躍している。また、小学生時代に居場所づくりのリノベーションを行った大工さんに憧れこの春から大工さんになる子や建築学科に進む子がいる。

●宅食便の実施で、「シングルになって湯河原町に引っ越してきたが、一人じゃないと思えて、安心して暮らせると感じる」といった声が寄せられている。自分たちが住む町への愛着や、困った時に助けを求められる関係性が構築されている。

活動写真



見守り活動のポイント

- ・ 宅食便（食料配布）をきっかけに、ファイナンシャルプランナー等の専門家による世帯の支援を行い、問題の根幹から解決することに取り組んでいること。
- ・ 居場所運営を行う中で、子どもに多様な出会いや体験を経験してもらうことで、経験の格差是正に努めていること。
- ・ 当時小学生で居場所利用者だったこどもたちが高校生・大学生になりスタッフとして活躍していること。

見守り活動をはじめた背景

2014年、慶應義塾大学と湯河原町による「未病に取り組む多世代共創コミュニティの形成と有効性検証」がスタート。2015年、湯河原町の子どもたちと共にワークショップを実施し、子どもたちのニーズや起こしたい未来について対話。そこから、子どもからお年寄りまで安心して過ごせる場作りを実施する事を決定し、町内にある古民家をリノベーションし、多世代の居場所づくりがスタートした。2016年、ゆがわらっことつくる多世代の居場所がオープン。多世代で学ぶ多世代共創塾、学習支援事業、居場食堂など、様々な事業を実施し“誰もが安心して過ごすことのできる”場を運営。また、湯河原町と連携し、困窮世帯やひとり親世帯の児童の食費等の料金免除制度を運用。2018年10月に一般社団法人ユガラボ 設立（運営団体）2020年4月、コロナ禍でオンラインの居場所を開設、同年9月湯河原こども宅食便を開始し、コロナ禍で経済的・精神的に苦しくなってしまった世帯をサポート。湯河原町で暮らす全てのこどもたちがこの町で暮らしてよかったと幸せなこども時代を過ごせるようにこどもと保護者、世帯まるごと伴走をしている。

対象／頻度／内容

（1）多世代の運営（2ヵ所）

- 対象者：町内外の方々全て
- 場所：湯河原町内に2ヵ所
- 頻度：2ヵ所とも週に3日程度開所
- 内容：子どもからお年寄りまで誰もが安心して過ごせる居場所の運営

（2）専門家によるサポート

- 対象者：ひとり親世帯や就学援助受給世帯が対象
- 対象世帯：200世帯以上
- 頻度：適宜実施（LINE等でもご案内）
- 内容：ソーシャルワーカーやファイナンシャルプランナーと連携をし、子どもだけでなく世帯まるごとサポートをしている

（3）学習サポート

- 対象者：ひとり親世帯や就学援助受給世帯が対象
- 参加世帯：約10世帯
- 頻度：対面授業は週に1日2時間程度（オンラインは個々別々）
- 内容：数学と英語をメインに指導。進路指導なども行っている。

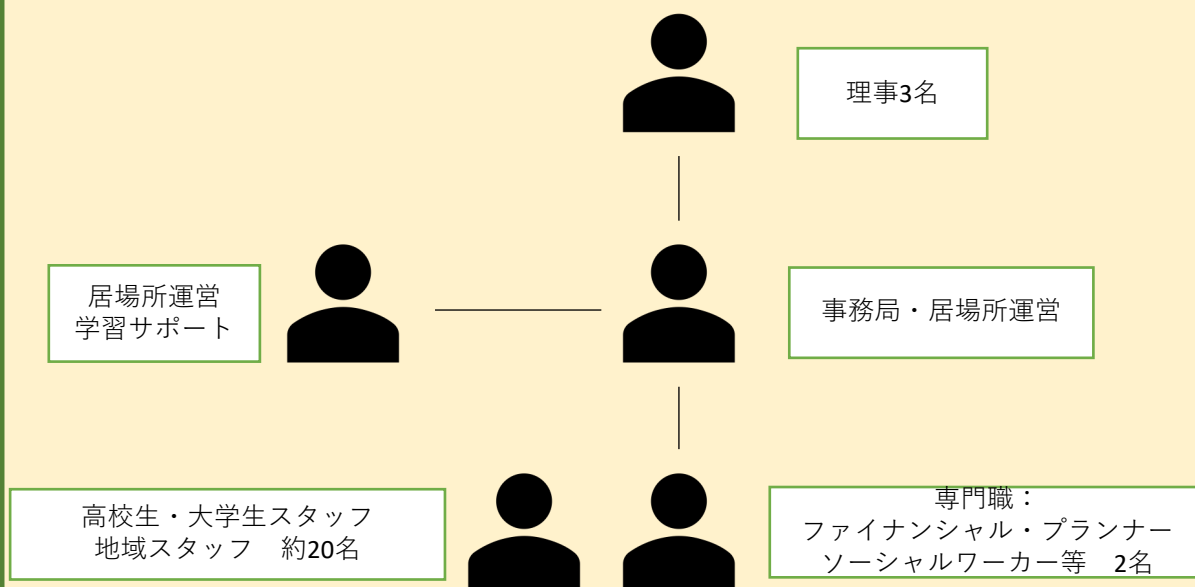
（4）宅食便事業

- 対象者：ひとり親世帯や就学援助受給世帯が対象
- 参加世帯：200世帯以上
- 頻度：3ヶ月に1回程度
- 内容：1万円程度の食材配布、お弁当配布、2023年4月現在、10回にわたり実施し延1200世帯以上へ宅食便を届けている。

見守り活動において抱えている課題

- ・ソーシャルワーカーやファイナンシャルプランナー等の専門家による支援や、子どもへの学習サポートを無料で実施しているが、支援を積極的に活用する人が少ないこと。プッシュ型の支援の前に、家庭の状況整理や保護者自身に心と時間の余裕を確保することが重要だと感じている。
- ・高校を卒業してしまった後に、公的なサポートが切れてしまうことが多く、大学生になってからの継続的なサポート
- ・障がいがある子どものケアができる専門職の不在

見守り活動を行う組織体制図



他団体との連携

- ・湯河原町役場 こども支援課、教育委員会等と連携
- ・湯河原町社会福祉協議会さんと連携
- ・町内の子育て支援団体さんと連携